

死に直結した原因を説明す

遺言

場第ニ七三部隊

慶集年

昭日

常業級一等兵  
氏名

右記日昭和21年9月23日三時一分

場第ニ病院

ニ於テ肺結核ニ依リ

戦傷病死シタルヲ下テ證明(現認)ス

肺結核

後編 新編

遺留品の有無 遺品あり

遺族承認の有無

昭和22年3月9日

所属部隊 偽品義勇隊員  
官等 級  
氏名 ( )

現住所

[Redacted]

[Redacted]

2378

9-13

身元(死亡)證明書

不詳

不詳

本籍地

留年担任所

身元(死亡)證明書

死亡原因

死亡日時

死亡場所

死亡年齢

性別

死亡の事由

死亡の場所

死亡の時刻

妻

氏名

(名号不詳)

昭和21年

不詳

時

分

東京府

東京市

昭和21年

大塚区

大塚

大塚

食糧不足(胃液)

衰弱

下痢

衰弱

衰弱

衰弱

衰弱

衰弱

衰弱

衰弱

衰弱

衰弱

紙用 42-14

昭和21年



死亡原因とする疾病の調査

所 属	種別	性別	年齢	職業	備考
東京府	東京府	男	45	無職	
行方不明	行方不明	男	45	無職	
東京府	東京府	男	45	無職	
東京府	東京府	男	45	無職	

本調査の結果を基に、本調査の目的

本調査の結果を基に、本調査の目的

本調査の結果を基に、本調査の目的

五 刻 錄

以... 下... 致... 天... 七

原... 刻... 局... 未... 刊... 錄... 後

23

現認證明書

滿洲

陸軍

第八三六七部隊

陸軍技術上等兵

4470

カトコト

右者昭和二十一年一月十四日

ニ於テ 榮養失調ニ依リ

痲死セルコトヲ現認ス。

昭和二十一年一月十九日

現認者元滿洲第八三六七部隊

現任職

官等八号 陸軍技術曹長

未帰国あり

戦

死

者

現

告

所属部

藤原第一七七隊

死時當時の階級

兵衛正守

本籍地

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

戦場

昭和十一年七月二〇日

昭和十一年八月十日

死

場所

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

死床

野井

野井

野井

野井

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

死後

44-11



死亡推定とする根拠資料

関東軍航空廠 (調部所屬)

(行動詳)

死亡推定 中華民國通北省輯安縣 尉級  
定邊所 輯安付近中共軍野戰病院 氏名

[Redacted Name]

不明となつた当時の状況

本人の所属する関東軍航空廠本廠は、終戦にともない奉天において武装解除をうけ、同地編成の作業大隊に編入されて入りしている。

本人は、武装解除後、部隊と別行動をとり、その後戦友とともに安東にいたり、中共軍に強制抑留され、各地を移動していったが、昭和二十一年月上旬登珍キフスにかかり、中共軍野戦病院に入院したが、その後死亡したと聞く、同部隊の戦友 [Redacted] が証言しており、爾後全く生存資料はない。

なお本人について、その後多数殺のものについて調べ直したが、存んら生存を裏付ける資料は入手していない。

二判 決

以上により本人は、昭和二十一年十一月二十六日中華民国通北省輯安縣輯安付近中共軍野戦病院において登珍キフスにより戦病死したものと推定される。

厚生省引揚援護局未帰還隊室長



陸軍大臣

陸軍大臣

満洲奉天市兵部所長

陸軍大臣

満洲奉天市兵部所長

陸軍大臣

満洲奉天市兵部所長

陸軍大臣

右列記したることを明す

昭和二十一年七月十日

陸軍大臣 陸軍省

9-12



中華民國廣東省南海

丁丁軍司令部

南海縣

西局區地

船隻 船口

昭 21. 12. 10

中華民國廣東省南海  
米市橋看所

榮長失調症

新病北

南海市長

長

中橋看所から  
佛山看所に移る  
米兵中口人多し  
子と長と同ソム

新の石州市東愛路石州  
行轅軍司令部と今敷へ移る  
はりの及び、その後20日  
移して本支隊が入つて来た  
冬の間一編に解散して居た

死亡當時の状況及び補給等

中口側 便所も、戦後にも船舫輸送に従事中心

誤り、ヤミーと破損したと、中口側には故意に

破壊したと捕らえて捕えられたと聞ソム

又、少くも佛山へ移る時、既に在る等三名は

居たが云

中橋看所から佛山看所へ送り来て来た

中口人から「佛山から行く日本人は三人共死に

した」と聞ソム

獄中生かす中、相当に困窮する人々を死した、此等者等は

失調が少くあつた、中橋は佛山より更に給子の要は聞ソム

31710 発受

現認證明書

本籍地

所屬部隊

大體等級或名

全病場

受傷年月日

殞病

死亡場次

死亡已分

死亡年月日

病

右確認  
即和堂年八月奉書

現認者  
現任

所屬部隊  
官民

36-12

係		空		20	
地方世話部		葬		20	
留守宅	度	死亡原因	部	氏	死亡
	甲	自死	軍	氏	不明
	自死	自死	軍	氏	不明
	自死	自死	軍	氏	不明
遺遺	遺品	死亡時刻	死亡場所	死亡時刻	死亡場所
遺品	遺品	死亡時刻	死亡場所	死亡時刻	死亡場所
遺品	遺品	死亡時刻	死亡場所	死亡時刻	死亡場所
遺品	遺品	死亡時刻	死亡場所	死亡時刻	死亡場所

死亡(不明)者覺書

昭和22年2月

先王聖明書

陸賈新造書

三十五

右書曰軍分兩州北省漢口及容海等

等處及兩部漢軍三州如平定年六月

十日未去也

有以兵大軍自入

陸賈新造書

[Redacted]









# 死亡現認(確認)証明書

◎裏面記載上の注意を見てください。

資 料 資 の 者 亡 死		元 諸 亡 死					現留守 作擔當者	木 管 地	無育の風	
遺留品	及遺骸の 処理	死亡區分	發病時	傷病名	死亡場所	死亡日時			除部 傳通	所 有
		法方たつ州と亡死 同レ病院同レ分所に勤務 発病時私が看護死時も同レ 病院 土葬に行ふ	土葬	死亡 病死	昭和三十三年七月頃 発熱と同行	肺結核	通化省柳河果柳河	昭和三十四年四月二十日頃	都 府 柳河	
係關のと人本						容	度		(若) (他) (現) (初) (役)	
所住現 友 人							兵		(後) (級) (特) (官) (初)	
職部屬所 友 人							氏 名		(後) (級) (特) (官) (初)	
(況 状 の 時 常 亡 死)		昭和三十三年七月頃より発病 第百三十三号方病院ニ分所にて 休養中ニ分所の移動により 三分所(通化省二道江)に入院 昭和三十四年一月頃三分所の移 動と供に通化省柳河街に行き 四月頃死亡(二分所) 病名肺結核								
氏 名								年 月 日 生		

\* ( ) 欄は省略  
 \* ( ) 欄は月日  
 昭和 年 月 日





軍邦 兵隊の生活と健康

軍邦

兵隊

生活

と

健康

A 資料提供者		B 未帰還者 喪失				入手
詳細な本人との関係	詳細な状態	場所	時期	所属部隊(艦艇又は住所)	届有無 役種(現存)	届期
住所 (現住) 独 M319 届期 (現存) 二 氏名 本籍	昭和 年 月 日 独 M319 甲乙丙 甲乙丙 区 分 留守宅 木緒 甲乙 年 月 日 甲乙 甲乙	甲乙丙 甲乙丙 区 分 留守宅 木緒 甲乙 年 月 日 甲乙 甲乙	昭和 年 月 日 独 M319 甲乙丙 甲乙丙 区 分 留守宅 木緒 甲乙 年 月 日 甲乙 甲乙	所属部隊(艦艇又は住所) 独 M319 甲乙 年 月 日 留守宅 木緒 甲乙 年 月 日 甲乙 甲乙	届有無 役種(現存) 兵 種 (職階) 階 級 (職名) 氏 名 年 月 日 甲乙 甲乙	届期 届期 届期 届期 届期 届期
2年10月南洋作戦に参り不幸に戦死。敵陣に墜ち附近の住民へ入道。大に怪は不明。						

心原友がき資料通報

軍 邦

軍部明瞭 担任 地区 区分

A 資料提供者		B 未 冊 運 者 資 料					入手
詳細な本人との関係	詳細な状態	場所	時期	所属部隊(戦地又は住所)	田 有無	経緯	
所 属 (戦地)	<p>戦地地河南新野附近作戦中                      通傷一入陸一在公在傷又は重                      傷一入陸一在又確定有は不明</p>	<p>昭和                      年                      月                      日</p>	<p>甲 乙                      丙 分                      区</p>	<p>留守宅 本籍</p>	<p>兵 種 (戦装)</p>	<p>通付照会</p>	
現住所					<p>階 級 (戦名)</p>		<p>氏 名</p>
所 属 (戦地)		甲 乙 丙	甲 乙 丙	甲 乙	年	時期	
氏名			摘要	甲 乙	月	官公獨	
未冊				甲 乙	日		
				甲 乙	時		